

台湾農家の婦人服に関する研究

屏東技院衣紋 邱魏津

目的 戦後から今まで四十何年間を経過して、台湾農家の生活レベルもアップして来た
 のため、台湾農家の婦人服はどのようなふうに変化して来たのを調査して報告する。

方法 今まで報告された中国民間芸術の実物資料を元で、1991年から1992年にかけて、
 台湾の南にある高雄県、屏東県の農家をたずねて、その農作業着、ホームウェア、外出服（
 宴會に参加する服も含む）を分けて調べた。

結果 高雄県と屏東県の農家はほとんど中国の福建、廣東から移民して来た素朴な人た
 ら、ですから、戦後の婦人服は一般的に黒か灰色の地味な手作り服をした、農作業をする
 時、手作りの棉の黒ズボンをはき、上衣は客家服飾を着る、頭には農作物を材料として作
 られた斗笠を被る、顔に日が当らなため、その斗笠の上に布（しぼん）一枚を被ってし
 ばる、戦後生活が貧乏だったせいで、お正月とかご宴會などの時だけきれいな服を一着買
 って着る。約この十年間、農業機械化に転化され、電気用品が家庭に入り、農婦が昔より
 時間の余裕があって、積極的に農会で行なわれた家政班に参加して、いろいろな生活知識
 や身まわり技術を学ぶ、そのため、農作業着や、ホームウェア、外出服が昔より大いに変化
 されたことがわかった。